

同志社大学

2016年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2017年4月11日提出

所 属	職 名	氏 名
免許資格 課程センター	教授	原田 隆史
研 究 題 目	人の真の情報ニーズを汲み取るコンシェルジュ型資料検索システムの構築	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度は3年間の科学研究費補助金での研究の初年度であり、以下の研究をはじめとした基礎研究を行って評価を行った。</p> <p>(1)書評中にみられる感情表現と読後感の分析 書評中にみられる形容詞および名詞と読後感との関係を調べたところ、形容詞については読後感と一致するものが多いものの、表現は多様であり、また書評中には表現されない読後感も多いことが明らかとなった。また、名詞についてはさらに多様な表現が使われることが多く、そのまま機械化の基礎データとして使用するのには難しいことが明らかとなった。さらに、書評中では相反する感情を示す形容詞などが同時に使われることも多く、どれが内容と関わるのか等についてのより詳細な分析が必要であることが明らかとなった。</p> <p>(2)図書館における同時貸し出しと Amazon の推薦の違いの分析 図書館で同時に多数の図書を貸し出す場合には関連する図書が借りられることが多い。それを利用して図書の推薦を行う場合と Amazon の推薦を比較したところ、図書館と Amazon とは本の選択基準が異なり、図書館の方が Amazon よりも広い範囲の図書を借りていく傾向が多いことが明らかとなった。ただし、このことは全く関係ない図書の利用も多いことを示しており、より詳細な分析が必要であることが明らかとなった。</p> <p>(3)Wikipedia や図書のタイトルなどを元にした検索語の拡張 検索語として入力された言葉だけでは情報要求に十分に答えられないことを想定し、Wikipedia や図書のタイトルなどで検索語と共出現回数が多い語を OR で接続した検索を行って評価した。その結果、Wikipedia を元にした語については情報要求とは異なるものがほとんどであったのに対して、図書のタイトル中で共出現したものについては関連するものも多く、検索語拡張の候補とできる可能性があることが明らかとなった。ただし、図書のタイトル中の語についてもノイズは極めて多く、実際のシステムへの応用については課題が多いことが明らかとなった。</p>	